

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2015 年 11 月号 (第 88 号)

発行責任者 稲村 洋二



秋の狭山湖畔 仲山富夫/撮影

秋の公開美術講演会「モネが発見したニッポン」成功裡に終わる！

ところざわ倶楽部 8 期最後の
事業、秋の公開美術講演会
「モネが発見したニッポン」
が、10 月 19 日、斎藤陽一氏
(美術ジャーナリスト) を講師

にお招きし、中央公民館にて開催されました。初の美術関係の講演でしたが、折しも東京都美術館で「モネ展 (9/19~12/13)」を開催中で 137 名の美術ファンが参加、大好評を得ました。特に一般の方の参加が 52% もあり、会員参加者を上回ったこと、女性の参加者が 59% もあったことが今回の講演会の特長的な点でした。

斎藤先生によれば、19 世紀後半に登場した「印象派」の画家たちは、当時の主流であった伝統的な絵画観に挑戦し、西洋絵画史における大きな「印象派革命」を実現した。ピサロ、マネ、セザンヌ、モネ、ルノアール、ゴーギャン、ゴッホ等日本人が愛好する画家がキラ星の如く登場。その契機は浮世絵の与えた影響が大

きかったというお話でした。

モネは熱心な浮世絵収集家で、浮世絵から、西洋絵画にはない豊かな啓示を得て、咀嚼・吸収し、自然を色彩あざやかに描く創造的な作品を生み出した。

また、晩年のモネは、葛飾北斎の「富嶽三十六景」や歌川広重の「東海道五十三次」から着想を得て、「積藁」「ポプラ並木」などの連作を試みた。浮世絵に接しているうちに、ついには日本人の自然観に近いところまでいった画家であった。最晩年に取り組んだ「大睡蓮」は、モネが日本人から吸収したものを結集したものであると斎藤先生は結ばれた。日本人が印象派の画家を好み、「モネ展」が人気を集めているのは、印象派の画家が浮世絵を発見、ヨーロッパ絵画の世界で、日本の心を描いたところにあると痛感しました。(広報部長 仲山)

ところざわ倶楽部 第 9 期定期総会 (11 月 12 日木曜日)

総会 (13:30~14:10) 懇親会 (14:20~16:00)

場所：市民文化センターミュージズ管理棟 2F ホール

※多くの会員の方の出席をお待ちしています。

ところざわ倶楽部に想う ～原点にもどれ～

理事 島川 謙二

ところざわ倶楽部8年間のうち6年間、私は理事を務めたが、今8期ほど異常な期はなかった。まず会長をふくむ3人の理事が任期途中、半期、6月までに辞任した。今までも家庭の事情や体調を崩して辞任した理事はいたが、1期に3人ということは初めてで異常というほかない。

10月の理事会で、ある理事が「会長が任期途中でやめたけれど支障なくやってきたではないか」と発言した。それが「ところざわ倶楽部の地力・底力」かもしれない。私は稲村会長代行はじめ3役や役員のたいへんな努力のおかげだと発言し、その努力を多とし、敬意をはらい、その上で「総括の重要性」を訴えたのである。総括とは評価であり、問題解決の道筋の提示である。

私は事業部の総括が不十分であることの一例として、文芸講座で初めて会員と一般市民とで受講料に差をつけたこと（1000円と1200円）に一定の評価をしながらも、「それが最適であったか」と問題提起をした。「会員満足度の向上」を図るなら、もっと差をつけてもいいのではないかと・・・。

需要と供給で「価格」が決まる、これが経済学の真理である。文芸講座の受講料について、ステップアップするヒントがここにあるのではないか。

いろいろな人がいて、いろいろな選択肢、アイデアを出し、情報を共有化し、議論をし理解をすすめ結論を得ること。この「ていねいな合意形成」が「ところざわ倶楽部」の強い発信力となれば一歩前進である。相互理解を得るには粘り強い説得や、より緊密なコミュニケーション（ノコミュニケーションもふくむ）、相互

信頼が大事であり、会長代行が理事会の暑気払いを即実行したのもそれを狙ったものであったろう。

言うまでもなく、「ところざわ倶楽部」はサークルで成り立っているが、「焼き鳥」にたとえると、サークルは焼き鳥の材料（正肉、ハツ、スジ、モツなど）であり、横串がなければバラバラで焼き鳥にはならない。横串がちゃんと機能しているか。その機能こそが「ところざわ倶楽部」なのだから。

加齢に伴う事象は、「ところざわ倶楽部」の宿命であり、新陳代謝・バトンタッチに苦労している現実がある。一時「ところざわ倶楽部」屈指の勢力を誇った「公園を楽しむ会」が今年をもって退会の予定とか。また、市民大学の22期生のうち2年次に20数名が進まず退学したとか。さらに市民大学や高齢者大学など所沢の「大学」の応募状況が盛況ではないという。これらが「構造的な」問題かどうか、しっかり検証する必要がある。自己研鑽やマズローのいう自己実現の場から社会参加の場へという視点を長期的には持つ必要があるが、それは言葉でいうほど現実には容易ではない。

「ところざわ倶楽部」は、単なるなかよし集団ではない。いわゆる老人クラブではない、一味違う存在感のある集団、組織である。それは、「自主的、主体的に」「生涯学習を、ずっとたのしく、つづけたい」という意欲をもち、「地域貢献や学びを地域に還元したい」という「高い志」を秘めた会員たちが結合した集団であり「倶楽部」である。そして、その理念を純化させればさせるほど組織は縮小するものだということを覚悟しておかねばならない。「たのしさ」は「継続」の力であるが・・・。

10月度 理事会報告

総務部長 稲村 洋二

10月13日（火）第10回理事会開催。

(1) 総務部案件

- ・総会の準備の進捗を確認。
- ・来期理事交代サークルの確認。
- ・来期の役員人事(案)を発表。

会長：稲村洋二、総務部長：石堂智士、総務副部長：田口元也、事業部長：二上拓夫、事業副部長：森野辰夫、広報部長：仲山富夫、広報副部長：当麻 実、会計：曾部康子、中原幹男

- ・8期総括について、議論した。

(2) 事業部案件

- ・一般公開講座「モネが見た日本」について確認。
- ・総会後の懇親会について説明。
- ・10月20日、22期市民大学閉講時の入会案内。

(3) 広報部案件

- ・HP作成用のパソコン・ソフトの費用は¥118,280。10月購入する。担当は、岡田俊吾氏から玉上佳彦氏へ、28年1月に交代する。
- ・「広場」11月号編成案について説明。

第 22 期市民大学「グループワーク発表会」

22 期企画委員 田口 元也

第 22 期所沢市民大学受講生による「グループワーク発表会」が、10月6日(火)、13日(火)の2日間にわたって所沢市中央公民館ホールで開催されました。

第 22 期受講生は1年次の入学時は 80 名でしたが、2年次は最終 56 名の修了です。グループ編成も、従来の 8 グループから 7 グループ編成と減少、厳しいスタートでした。しかし、2年次のグループワークの活動が始まると、はじめはテーマ設定に苦労していましたが、ひとたびテーマが決定するやいなや出前講座、行政や学校訪問、図書館での調査・取材活動と活発化し、講師の先生方も規定の指導回数のオーバーなどお構いなしに、熱心にご指導いただきました。夏休みも返上し、毎週のように教室で活発な議論をしている様子が見受けられました。2日間にわたる「発表内容」は、各グループともその成果が十分に発揮されました。それらは、①斬新でユニークなテーマ、②取材・調査活動のあとが見える内容、③広がりのある発表表現、④社会を見据えた提言、そして⑤グループのチームワ

ーク。2年次の厳しいスタート時点を思えば、心配や不安を吹き飛ばすような「発表」だったと思います。

第 1 日目



1. 音楽：雅楽で奏でる「百人一首恋歌」
2. 所沢地域史：所沢地域の庶民教育史～寺子屋と文化人に学ぶ～
3. 地方自治：子育て世代にやさしい町・所

沢ーシニアも参加する放課後児童支援をさぐる

4. 日本の農業：所沢の耕作放棄地を考える

第 2 日目

1. 脳の科学：振り込め詐欺『だます脳』『だまされる脳』
2. 地域の自然：孫に残そう！みどりと自然
3. 日本の芸能：能楽「はじめの一步」

サークル活動報告

自然に親しみ 自然に学ぶ

私達のサークルは、所沢の湿地や緑地の保全活動に積極的に参加し、減りつつある自然環境の保全に寄与することを目的にしています。具体的には、糶谷八幡湿地の田植えや早稲田大学湿地の外来植物除去作業などにも参加しますが、「トトロのふるさと基金」が取得した「トトロの森 12 号地」の里山管理作業をメインにして 3 年目にはいりました。

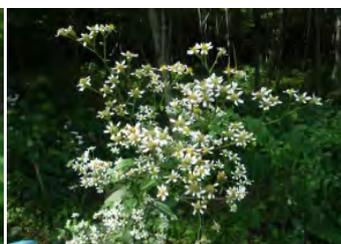
この 12 号地は埼玉県が指定した「北中・水野の森ふるさと景観地」の広大な平地林の一角にある約 5,200 平方メートルの林で、私達はこの林の 3 分の 1 ほどの部分を担当しています。トトロ財団はこの雑木林を管理の行き届いた多様性のある落葉広葉樹林とする事を目指しており、作業は常緑樹の伐採・下層植生の刈り払い・その他林地の整理ですが、

地域の自然を考える会 矢嶋 順一

トトロ財団の方の指導のもとに、ヘルメットをはじめ各種の用具もお借りして実施しています。常緑樹の伐採はほぼ完了し、林地には日も差し込むようになって春蘭・つりがねにんじん・ヒラヤマギクなどの山野草もたくさん見られるようになりました。作業は月 1 回、午前 10 時から 12 時までの 2 時間です。その後はお弁当を食べながら連絡事項や打合せ、おしゃべりをして解散します。作業ばかりではなく、1月の新年会・5月の竹の子掘り・8月の暑気払いなど親睦の催しも会員皆が楽しみにしています。

私達会員は各々が年相応に、体力的にも、時間的にも無理せず気楽に参加、勉強しているサークルです。

興味をお持ちの方は是非一緒に如何ですか？



サークル活動報告

シニア世代の社会参加をサポート

いま、全国で65歳以上の高齢者は3300万人いるそうです。これは国民の4人に1人が高齢者となります。10年前の高齢者と比較した調査によれば、今の75歳と10年前の65歳と体力は同じくらいだそうで、つまり10歳も若返っているそうです。それでは、長寿に欠かせないものとは、①適度な運動、②バランスのとれた食事、③社会参加 なのだそうです。

私たちの「所沢シニア世代地域デビュー支援の会」は、そんなシニア世代が、地域で社会参加活動へ第一歩を踏み出すためのサポート活動を行うサークルです。所沢市民大学の第18期・20期の修了生で「地方自治」のグループワークを取り組んだ有志で立ち上げました。そのときは増田寛也著『地方消滅』はまだ発行されていませんでしたが、講師の広瀬克哉先生の所沢市もやがては「ゴーストタウン」に、の講義を聴いてショックを受けました。そこで私たちがテーマにしたのは「さ

所沢シニア世代地域デビュー支援の会 田口 元也

らなる元気な所沢を創るために～元気高齢者の社会参加を探ろう～」でした。社会参加とは、サークル活動やボランティア活動を通じて他の人とつながることであると学びました。それが健康寿命の延伸につながり、ひいては「マチ」の活性化にもつながると考えています。



セカンドライフ講座

私たちはこれからこんなサポートを考えています

- ① シニア向けセカンドライフ講座の紹介
- ② セカンドライフを高める講演会・活動支援イベント企画
- ③ 地域ボランティア団体・サークル紹介とその協働

サークル活動に参加して
思うこと

認知症のことを学ぶ仲間との日々

みんなで学ぼう認知症 山本 苗子

昭和40年代だろうか、拭き掃除がスイスイ出来る「サッサ」と言う科学雑巾のコマーシャルがあった（わかる人はわかる）。「サッサ」「サッサ」の言葉にあわせ動き回る主婦の姿が、「あなたのお母さん、そっくり」と知人に言われた。子供の頃、そんな母と散歩中「あっ！その草踏んじゃだめ！！」と私の手を思いっきり引っ張った。その草の根を煎じ飲ませ、私の百日咳を治したとか。どうも命の恩人（草）らしい。その草「つばな」は風の中、大きな波を打って広がった。私達3人のきょうだいが頭を寄せて楽しんだのは、毎日続きを読んでくれた『十五少年漂流記』。学びの中でネットに載っていた「認知症の方が書いた詩」に出会い、あんな事、こんな事、を思い出した。

手紙 ～親愛なる子供達へ～

年老いた私が、ある日
今までの私と違っていても
どうかそのままの私を理解して欲しい
私の服の上に食べ物をこぼしても 靴紐を結び
忘れても あなたに色々なことを教えたように

見守って欲しい あなたと話す時 同じ話を何度も何度も繰り返しても その結末をどうかさえぎらずにうなずいて欲しい あなたにせがまれて 繰り返し読んだ絵本の あたかな結末は何時も同じで 私の心を平和にしてくれた 悲しいことではないんだ 消え去っていくように見える私の心へと 励ましのまなざしを向けて欲しい 楽しいひと時に、私が思わず下着を濡らしてしまったり お風呂に入るのを嫌がる時にも 思い出して欲しい あなたを追い回し 何度も着替えさせたり 様々な理由つけて 嫌がるあなたとお風呂に入った 懐かしい日の事を
最後は認知症だった母の気持ちに伝えられなかったことを、悔いている。



(絵 山本苗子)

認知症の小さなこと、見えないことにも、こころ配りが出来るように、日々、みんなと学んでいる。

「戦後 70 年を振り返る」シリーズ第 7 回

泣き笑い 70 年の歩み

葵の会 池田新八郎

終戦と鳥取での少年時代（昭和 20 年代）



このシリーズも第 7 回、倶楽部諸先輩が戦中、戦後の混乱期を執筆されたので、私は日本が高度成長を謳歌していた時代、編集者として生きた昭和、1970 年代、80 年代を振り返ってみたい。

私は戦争が激しさを増した昭和 17 年、京都の東寺近くでこの世に生を受けた。しかし父が出征し、昭和 20 年 3 月ビルマ戦線で戦死した。母は 3 歳の私と、1 歳下の弟を連れて母の実家鳥取に帰郷、高校を終えるまで中国山脈の山間の村青谷町（現鳥取市）で過ごした。私の戦後はここから始まる。まだ幼く戦争の記憶はほとんどない。昭和 20 年代の小学生時代、山遊びや、近くの日本海で泳ぎ、貧しかったが、自然の中でのんびりした少年時代を過ごした。あまり本を買ってもらえなかったが、少年倶楽部や少年、冒険王などの漫画にも夢中になり、鉄腕アトム、少年ケニアなどに熱中していた。後年漫画の編集に携わることになろうとは夢にも思わなかった。

中学～大学時代（昭和 30 年代）

中学時代、まだまだ井の中の蛙であった。新聞社主催の読書感想文コンクールに 2 年続けて入選したことがあった。このことが多感な田舎の少年の心に一つの示唆をあたえた。将来は文章に携わる仕事に就こうとぼんやり考えるようになった。高校時代はあまり勉強せず、ただひたすら小説をむさぼっていた。世の中は 60 年安保闘争で騒然としていた。高校でデモに参加する友人もいた。母の反対を振り切り上京し、小さい夢を持って大学へ入学した。アルバイトしながらの 4 年間は、学園闘争全盛時であったがノンセクトで通した。

少年マガジン時代（昭和 40 年代）

卒業後は、運よく目的の某大手出版社に就職することが出来た。東京オリンピックがあり、日本に活気が戻ってきた時代。会社は 50 種以上の雑誌を発刊しており、私は報道関係か文学関係の部署を希望したが、少年誌の編集部配属された。以降、定年近くまで少年誌の編集に関わってきた。最初の配属先は「少年マガジン編集部」、「右手に

朝日ジャーナル、左手に少年マガジン」という時代で、「巨人の星」「明日のジョー」が絶好調、第一次マガジン黄金時代であった。ここであこがれの手塚治虫先生の担当となった。当時週刊誌 4 本、月刊誌 7,8 本、少年新聞、漫画専門誌にも執筆されていて超多忙であった。担当者が付いていないと、他社の作品を先に手塚先生がやってしまう事があった。毎回順番問題で担当者同士のけんかが絶えず「地獄の手塚プロ」といわれていた。明けても暮れても手塚プロに泊まり込み、悪いことはすべて手塚プロの 3 年間で学んだ。新婚旅行から帰ってすぐ手塚プロに泊りこみ、1 週間も帰らないものだから妻は泣き泣き叔父に相談、「普通そんな仕事は無い。池田君はきっと浮気をしているのではないか」といったような笑い話もあった。

私の結婚式は、手塚先生がピアノを弾き、永井豪先生が歌を歌うという段取りになっていたが、先生は締め切りで出席できず、代りにテープが届けられた。「池田さんがいつまでも私を担当して下さい、結婚して子供が生まれたら、また出版社に入り、池田さんの子供が私を担当してください」というような内容であった。このテープはこの時代の懐かしい思い出として残してある。

コミックボンボン時代（昭和 50 年代）

1980 年代私は編集長となり、少年マガジンの弟雑誌「コミックボンボン」を創刊。漫画、アニメ、ゲーム、玩具等とメディアミックスをはかり、当



赤塚不二夫先生と

時テレビが普及、テレビ化作品を推進していった。創刊号は 15 万部であったが、先行するライバル雑誌は 90 万部発行していた。ここから私の戦いが始まった。赤塚不二夫

先生（天才バカボン）、水木しげる先生（ゲゲゲの鬼太郎）、石森章太郎先生（仮面ライダー）、富野由悠季監督（ガンダム）に出会い、アニメ化作品がヒットしていった。苦節 10 年、雑誌は 80 万部発行、念願のトップ雑誌となった。ガンダムブームが爆発、SDガンダム、ガンダムプラモが子供たちを魅了し、ボンボンはブームの先導役となった。戦後の輝いた時期、日本の高度経済成長時代と共に、私自身も最も充実した良き時代であった。

「出会い」シリーズ 第5回

先輩との貴重な出会い

人に会い自分を探す

アジア研究会 三上いくよ

ずーと、ずーと、50数年前に勤めていた頃に、一回り上の方に出会った時の話である。記憶はだんだん遠のきがちで定かではないが、何となく思い出す事がある。その方を「Aさん」と呼ぶことにする。

「Aさん」の周りには、いつも人が集まり楽し気な話声が弾んでいた。



何か引き付ける不思議な力を持った人である。

私は、「Aさん」とは、今までに遭遇した事がない出会いであった。

それは、食事を共にしたり、買い物をしたりしたとき、常に「いいよ、払うから」と言ってくれていた。また、「Aさん」家に伺い旦那様に会い、可愛いがっっていたら、時々泊まったこともある。

また、「Aさん」は様々な分野の人達と知り合いが多く、人脈が豊富であった。

そして、お子さんの、学校の宿題においては、知り合いの方をお願いして仕上げることがもあり、それには本当にビックリした。



私は、常に自分でするものだと思っていた。

その頃、私は、自分の事は自分でする生活を身につけようとしていた。また、食事や買い物にしても人に支払ってもらった経験がないので、兎に角驚きの連続であった。

この様な、出来事が度重なるにつれ、刺激が沢山あって、生真面目な融通の利かない私の性格が、いつの間にか、だんだんと、物事に対して心が溶け柔らかくなっていく自分へと変っていったように感じた。

「Aさん」との出会いから思うことは、人には様々な分野での活躍を通して、価値観や、常識や、如才や、気配りや、目配りなどなど、それぞれに育って来た環境によるものなのだと感じる。

現在では、一回り下の方たちと、趣味を共にしながら、今日も出かける。

出会いのチャンスを大切に

アジア研究会 小玉 正男

今までに何人の方と出会った事でしょうか。幼年期は家族や近所の方々の数えられる程度の人達と出会い、学校へ行くようになり地域社会にデビューし、多くの出会いが始まりました。社会人となると就いた職業で大きく異なります。

研究職では誰も会わない日もあり、営業職では一日に数十人に出会う場合もあるでしょう。人生を過ごしてきた環境での人との出会いの数は大きく違うことと思います。



入社時の先輩との出会いは偶然であり、私の考え方の一つの基になっている事があります。先輩から「技術で嘘をつく・誤魔化すと、必ず後からシッペ返しがる。雨が漏る建物は雨が漏る造り方をしたからだ」と教えられました。建設業で現役生活の全てを費やし、人生の折り返し点も過ぎ現役を引退しましたが、時に頑固な性格が技術的な議論以外で出してしまう事を、反省しなければと感じる今日この頃です。

36年前、都内から椿峰NTに引っ越し、有志でコミュニティを立ち上げ、良い環境が醸成されています。今でも定例会に参加していますが、高齢化に向けては近場での人付き合いをより高める事の必要性も感じています。退社する10年前に現在の旧町に引っ越して来て、マンション理事会から町内会と、地域の方たちとの新たな出会いが市民大学入校のきっかけとなりました。新たな出会いがさらなる出会いを生みました。

厚労白書では健康寿命と平均寿命には10歳以上の差があります。今後も社会との繋がりを保ち、孤独感を抱かない元気高齢者を目指したいと考えています。一期一会を大切にし、せっかくの縁を絆に高め、それを切らないように、これからは、発する言葉には気を付けたいと常に思っているのですが、なかなかできません。

「繋ぐのも 切るのも言葉 人と人」温泉施設で見た川柳です。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

アジア研究会(杉浦正紀 2949-5560)

11月18日(水) 定例会 13:30~16:00 相馬一成氏の講演会「731部隊陳列館について」
12月16日(水) 定例会 13:30~16:00 今後の活動計画、研究テーマに関する打ち合わせ

葵の会(池田新八郎 2940-0711)

11月14日(土)第2回文学散歩(田端文士村)
11月18日(水)第2回能楽鑑賞 国立能楽堂
11月19日(木)第3回文学講座「宮沢賢治秩父に行く」中央公民館 13:30~16:00

傍聴席(高垣輝雄 2926-7164)

11月20日(金)学習会、14時~新所沢東公民館
桑島健也氏のお話:市議会議長から①議会改革、②所沢の現状、③行革等についてお話を聞きます。(公開です、詳細は倶楽部のHPをご覧ください)

野老澤の歴史をたのしむ会(小倉洋一 2949-4695)

11月19日(木)第4回鎌倉街道を歩く
午前8時30分 JR 武蔵野線新秋津駅改札口集合
12月3日(木) 狭山33観音を巡る
詳細は後日

地域の自然を考える会(広沢正己 2939-9181)

11月15日(日) 早稲田 自然薯掘り 9:30~14:00
11月24日(火) トロ 12号地管理作業 10:00~12:00
11月29日(日) 糎谷八幡湿地 収穫祭 8:00~
12月13日(日) 早稲田オオムラサキ観察 9:30~13:00

公園を楽しむ会(渡部正俊 2921-3014)

11月26日(木):「晩秋の飯能を歩こう」所沢駅改札口付近 9時30分集合
12月17日(木):定例会と懇親会、詳細は後日

地球環境に学ぶ(塚本二郎 2942-3117)

11月17日(火)定例会 9時~11時 新所沢東公民館研修室4号、環境問題持ち寄り発表・話し合い他 ※傍聴希望の方 お気軽にお立ち寄り下さい。(事前連絡は不要です)
12月15日(火)15時~新所沢東公民館、あと忘年会予定

ところ会(居田治 2903-8400)

11月6日(金):年次総会
12月4日(金):紅葉の品川を歩く
1月15日(金):川越七福神めぐり(計画中)

楽悠クラブ(甲田和巳 事前連絡は不要)

11月9日(月)映画「屋根の上のヴァイオリン弾き」DVD鑑賞(場)中央公民館#8-9 (時)13:15~16:50
12月14日(月)①総会 ②ドミンゴ・コンサートDVD鑑賞(場)中央公民館#8-9 (時)13:15~16:30

懐かしの映画・鑑賞会(二上拓夫 080-1250-6151)

11月10日(火)10:00~12:30 西新井町公民館
洋画「さよならをもう一度」(61年)バグマン、イブ・モンタン
11月24日(火)10:00~12:30 纏め会 西新井町公民館
邦画「蘇州の夜」(41年)満州映画 李香蘭、佐野周二

歴史散策クラブ(大河原功 2943-2004)

11月14日(土)役員会 新所沢東公民館 9:30集合
11月28日(土)日本最大の板碑から長瀬深谷を巡る
集合:所沢駅2階 8:00
12月12日(土)総会&忘年会 新所沢東公民館 15:00集合

民話の会(仲山富夫 090-3902-0283)

11月7日(土)有志参加、昔話を聞く会「昔ばなしの世界(沼田曜一作品集より)」航空記念公園 茶室「彩翔亭」
11月20日(金)定例会 中央公民館 学習室1号

北欧の会(樋口俊夫 090-6483-7993)

第63回例会 11月21日(土)13時20分~
北欧のDVD鑑賞、持ち寄り学習他
第64回例会 未定
新所沢東公民館

食を通して所沢を知る会(岡部まさ子 2928-1868)

11月10日(火)
講演会「地産地消の現状」 於:フラット 10:00~
関心のある方はどうぞ
12月1日(火) スパイスを使った里芋料理 10:00~

地域の自然(宮脇 正 090-9847-4585)

11月14日(土曜日)早稲田大学B地区
下刈り 枯れ枝整理 植生調査
11月28日(土曜日)みどりの森博物館 所沢市域
毎木調査 雑木林保全活動

みんなで学ぼう認知症(本多義博 090-3144-1438)

11月9日(月)13:30~ 生涯学習推進センターにて
第1回けん玉講習会開催 講師:久米岳晴氏
12月7日(月)9:30~生涯学習推進センターにて
第2回けん玉講習会開催(予定) 講師:同

所沢の自然と農業(清水仁一 2944-8835)

11月23日(月)10:00~ 市民大学ファーム「秋の収穫祭」
11月28日(土)10:00~ 「麦まき体験とうどんづくり」手伝い
12月10~15日 景観まちづくり活動展示会(市役所1階)
12月20日(日) 10:00~ くぬぎ山の手入れ(赤坂の森)

所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口元也 090-9820-5668)

11月17日(火)10:00~12:00 定例会
・議題 ①公開セカンドライフ講座総括
②新企画計画案検討 など
・所沢市生涯学習推進センター1F102号室

ドラマティック・カンパニー(佐藤 滋 090-1540-0161)

11月7日(土)、11月21日(土)、12月5日(土)、12月19日(土)いずれも10:00~12:00、新所沢東公民館。
「ロミオとジュリエット」を読み進めます。シェイクスピアを楽しく深く学べます。見学歓迎。

活いきシニア福祉の会(中村修市 090-1616-6733)

11月10日(火) 定例会
AM9:30~学習センター2階コミュニティホール
サークル2期目の活動について

【私の健康法 第30回】

インプラント治療法に感謝

地球環境に学ぶ

塚本 二郎



「私の健康法」と聞いてすぐに思いついたのは、7年前に施術したインプラント治療がうまくいっていることです。健康と歯との関係は認知症も含め、かなり論じられるようになっていきます。因みに、ところざわ倶楽部・広場5月号に「みんなで学ぼう認知症」サークル訪問記での「歯の衛生が認知症予防に！」とか、10月22日の同サークル主催の講演会“歯科医による口腔ケアと認知症予防”でも、より実務的なお話を伺いました。

ここで、私のケースを恥を忍んで簡単に紹介致します。痛くなければ歯科に行ったことがなく、手入れを怠り、ブリッジ等でしのいでいきましたが、71歳の時に手術を決意しました。手術内容は、下顎骨に穿孔しインプラント（人工歯根）を埋め込み、セットになった人工歯を4ヶ所でネジ込み固定する方法で“オール・オン・4”という療法でした。この金属は全てチタンで骨との結合が非常に良いそうです。参考までに聞いたのですが、上顎骨は薄くインプラント埋め込みが難しいそうで、入れ歯で良いのではないかとのことでした。（上の歯は上下に動かず固定、真空で密着できるので外れにくい）メンテナンスは4ヶ月に1回通い、手入れ指導、噛み合わせ調整等をしてもらっています。いろいろ良い点が多く、大事に使い投資を健康という形で回収したいと思っています。



むさし野非句会（二十七年十月） 銀座今行作品集



歌舞伎座の白亜のビルや秋高し
秋麗の銀座に吾は異邦人
マネキンも銀座の顔や秋うらら
路地裏の稲荷詣や秋裕
数寄屋橋はぐれ桜の初紅葉
秋空を窓にも映し和光ビル
秋澄むや和光時計の鐘響く
馴染みの店消へし銀座やあかねとぶ
爆買ひの行き交ふ銀座秋高し
金秋や老舗の間口いとせまし

鈴木 征子
河瀬 俊彦
小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
高橋 二加子
高光 泉
中嶋 弘子

モボモガは外つ国の人秋麗
啄木の歌碑の小道や小鳥来る
バス停の柳ちるなり西銀座
このあたり銀巴里の跡秋の声
秋蘭けし銀座は誰もエトランゼ
手づくりの花器に挿したる鶏頭花
山道を塞ぐ倒木秋出水
川音の登り来る丘草もみぢ
秋灯を天に積み上げ副都心

橋本 佑子
荒幡千鶴子
井出 昇
海老澤愛之助
粕谷のぼる
利根川啓一
中村 直子
平栗 彰子
飯泉 陽子

《編集後記》

▼「♪西に聳ゆる 富士の嶺 東はわれらの 大東京 むらさき匂う 武蔵野に……」。これは母校・山口中学校の校歌の一節。終戦直後の作詞・作曲なので「再建日本の中堅と」という言葉もでてくる。▼いま11月の中学同窓会の準備をしている。昭和33年3月の卒業生だから、みんな「ばあば」「じいじい」だ。とはいえ気持ちは、「○○ちゃん」「○○君」と昔の中学生にすぐ戻る。返信はがきには、多くの「近況メッセージ」が寄せられている。▼体調を崩した人、ボランティア活動、孫の面倒をみている人、現役職業人、娘夫婦と同居など、さまざまな人生がみえてくる。▼今年の「広場」は「戦後70年を振り返る」を連載している。戦中・戦後の会員の貴重な体験記に驚かされる。11月12日の倶楽部総会後には、市民大学修了生の期毎の懇親会がある。私は16期修了生。期毎のテーブルではどんな話の花が咲くであろうか。（当麻 実）

今月の川柳③ 作品発表

中島 峯生

6作品の川柳応募がありましたのでご紹介します。

- 「濡れ落葉愛想つかれ店屋物」 瞬間湯沸かし器
- 「黒一点着替え中です顔真っ赤」 海さとの
- 「安倍総理社会の窓も開いてる」 弦也
- 「高齢者すぐにシニアと言ひ直す」 弦也
- 「反省会やって飲みすぎ反省す」 庵閑子
- 「組体操びしと立った倶楽部組」 方声



川柳は五七五で、中七、下五は守り、リズム感を持たせませす。口語体で作成し、ヤ、カナ、ケリ等切れ字は使いません。季語は必要ありません。文芸川柳として完成したいと考えますが、まずは、作り慣れてください。滑稽等の三要素は自然に出て来ます。御題は自由として作品を募集します。

作品は11月20日までに担当の中島へメールは (mh-naka@jcom.home.ne.jp) または FAX(04-2928-1161)へお送りください。